## = 年の瀬・思い起こせば =

(例年、12月号はAP春季取り組み討論集会を終えて発信、あしからず。)

早い早い、もう12月。歳をとると月日の経つのが早いというのはよく聞くが、そのことを分かり易く紹介してくれた新聞記事を見つけた。

子供の感じる1年は、大人に比べて長いという。イラストレーターの南伸坊さんがレコード盤(若い人には?)にたとえてエッセーに記したもの。「ターンテーブルに針を置くと、はじめは大きく回り。渦巻くように円は小さくなっていく。1日を1回転とすれば、若い頃は長い道のりを歩き、年齢を重ねるほど短くなる」、なるほどな一。いや、私は今も大きく遠回りが多いが…。

今年はいろんなことがありました。年明けの加盟組合代表者会議、いよいよ迫ってきた第26回参議院選挙に向けて、村田きょうこの所属政党の判断を示すとき。あ一でもない、こ一でもないと悩んだ挙句、「勝つために」、その1点にかけた判断はご承知のとおり。

2月からはAP22春季取り組み、業種・業態の経営状況の違いが鮮明になるなかで、各部門・部会のまとまりのもと、それぞれの思いが込められた成果を引き出すことができた。

4月からはふれあい対話集会をはじめとした県本部や加盟組合へのオルグ。全組織が、掲げた目標に向けて春の嵐のように(言い過ぎか?、勝ったらなんでも言える…)動き出した政策実現活動。6月からは、雨にもめげず、暑さに負けず、村田きょうこ・勝利の2文字のために。

そして、迎えた7月10日の投開票日。なかなか当確のテロップは流れず、みんなが疲れ果てていた翌11日の朝6時13分、歓声が沸き起こった。今や議員バッチを胸に、新人議員とは思えない活躍ぶりを見せる村田参議院議員に誇らしさを感じるが、何より、参議院経済産業委員会において、「ご安全に!」、堂々と初質疑に立った姿を見て、ものづくり産業・基幹労連に働き・暮らす仲間の代表であることに目が潤んでしまった。うれし一な一、ありがとう。言い古された言葉だけれど、がんばれ!

さて、私事に戻ろう。新型コロナウイルス感染症が第7波となった今年の夏のこと。基幹労連の定期中間大会は9月8日~9日。何かの雑談で総務財政局より、「委員長、もしコロナ感染するなら今週中じゃないと大会に出られませんよ。」と言われ、その日の中央執行委員会で「感染しないようにしなければいけないが、感染するなら今週中」と冗談をとばした2日後、8月26日に我が身が感染の憂き目に…。結果的には、金属労協はじめ、すべての大会に対応できたのだが、冗談もほどほどにと反省。

そして、もういいよと言われるであろう膝の話。10月5日に内視鏡による手術を行い、8日には退院。しかも、歩いて単身赴任寮に帰ったことは看護師さんもびっくりのプチ自慢。あと一つ、これが大変だった~、11月に共同議長の立場でインダストリオール造船・船舶解撤会議でインドに6日間の出張。毎日・毎日のカレーが胃腸に負担をかける。日本のように水道水でうがいでもしようものなら立ちどころにお腹を壊し下痢。そんな情報を忘れずに行動していたのだが、帰国前日より、まさかの現象に。いや~、日本に帰ってからも約1週間、参りました。並べた3つの出来事に共通する点が一つ。健診で注意され続けた休肝日、なんと2年分も確保したのである。

いろんなことがあったけど、今年もあとわずか。1月のメッセージに綴った「知らんけど…」。秋には Z世代に流行し、NHKニュースにも取り上げられていた。

なんとも思い出深い1年だったが、年の瀬に私は本当に歳を取る。実は私の誕生日は12月27日、師 走の忙しい時期にと思う方もいるかもしれないが、もっと押し迫った12月30日は津村事務局長のお誕 生日。

世間様はこの忙しい時に大変だろうと言ったか言わずか。でも、きっと私たちの親たちは、元気な子供に恵まれて、さぞかし幸せだったに違いない…知らんけど。

今年もお世話になりました、良いお年を。

ご安全に 2022年12月9日 日本基幹産業労働組合連合会 中央執行委員長 神田 健一